

なに歯だより

平成30年10月11日
 第 13 号
 発行人 学会
 九州歯科同窓会
 大阪府同窓会
 岡谷親男
 〒555-0012 大阪市西淀川区
 御幣島1-3-9 スモカビル2F
 TEL&FAX 06-6475-2721
 06okatani30@gmail.com

会長挨拶

九州歯科大学 大阪府同窓会

会長 岡谷親男



大阪府同窓会の皆様、こんにちは。平素は同窓会活動に対しまして多大なるご協力賜りまして、誠にありがとうございます。なに歯だ

よりの発行2年ぶりになりました。近年は連絡事項、報告事項はSNSを利用しておりますが、なに歯だよりは引き続き紙媒体で続けるように致します。

6月に大阪北部を震源にした、震度6の直下型地震に見舞われました。平成7年の阪神淡路大震災を思い出させる大きな揺れでしたが、幸いに診療に甚大な影響を与えるほどの被害を受けた先生がなくて安堵いたしました。

昨年12月には在阪各歯科大学同窓会、役員懇談会が17年ぶりに九

歯大の担当で開催されました。役員の皆様方のご尽力により、無事盛会裏のうちに終えることができましたことを、この紙面を借りて改めて御礼申し上げます。

この度6月1日付けで大50期の沖永敏則先生が大阪歯科大学、細菌学講座の主任教授に就任されました。教授就任祝賀会には、西原学長はじめ多くの先生方のご参加をいただき改めて同窓の有り難さを痛感した次第です。沖永先生には、今後益々のご活躍をお祈りすると共に、九歯大後輩への良き指導者として大阪府同窓会にも貢献頂ければ、これ以上の喜びはありません。

私は山本克彦前会長の後を引き継ぎ4期8年目を迎えました。任期残りの半年を、引き続き皆様のご指導ご鞭撻賜りながら、次期執行部へ、恙無くバトンを渡したい所存ですので、よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、なに歯だより発行にあたり、下出先生を筆頭に編集委員の先生方、お忙しい中、掲載原稿を頂戴しました先生方に厚く御礼申し上げます。

花三春

雨上がりの夕暮れにほんのり甘く清純な香りが立ち込めます。

純白に輝くクチナシの花は、薄暗さの中でその白さを一層際立たせ、存在感を放ちます。わずかな日で瑞々しさが失われ、日焼けしたように茶色く姿を変えてしまう儂い花ですが、可憐でありながらも秋には橙色の実を付け、冬も青々とした葉を茂らせます。クチナシの無言の美しさは「喜び」や「幸せ」を運ぶとされ、「愛を育む花」「天国に咲く花」として邪悪なものを追い払うと言われます。

花と香りの美しさが、身体を離れてもずっと朽ちない魂を浄化してくれるのでしょうか。もし愛する家族や友人が天国に居るのなら、そっとクチナシを手向けてみませんか。

言葉は無くても、折る心と共に、花が想いを届けてくれるかもしれません。

「私は幸せです。心配しないで。」と白く輝く花言葉にのせて。

沖永敏則先生大阪歯科大学細菌学 講座教授就任記念講演会・祝賀会

平成30年8月4日18時30分 於 大阪第一ホテル



この度、長崎県佐世保市の御出身で、我々の母校九歯大を御卒業後、母校にて西原 達次教授・学長の下で細菌学の御研究をされた沖永敏則先生(大50期)が、大阪歯科大学 細菌学講座の主任教授に就任されました。このことは、今年の5月開催の大阪府同窓会臨時総会に西原学長が来賓としてご来阪の際にご披露されました。母校御出身で大阪歯科大学の基礎系学部の教授御就任は稀有なことで、我々同窓一同、沖永先生にお

慶びの小宴を開催させて頂き、そのお人柄にふれさせて頂くと同時に、今後とも末永くお付き合いさせて頂くために、又、少しでも先生の御研究にご協力させて頂くため、ご多忙の中御研究の御一端をご披露していただくべく講演もお願いしました。当日は、約45名の御出席いただき、先ず、高濱 勉学術理事の司会で就任記念講演会が開催されました。『口腔細菌叢解析からみる口腔健康長寿』という演題で、約40分講演頂き、その後は同窓会員からのいくつかの質問にもお答えいただきました。沖永先生の研究室では、口腔常在細菌叢の中の「善玉菌」や、口腔環境を整える未知の分子の探索を行っているそうです。また、全身疾患に関わる口腔細菌の動態について、基礎的な研究を展開されているとのことですので、今後の御研究の成果に期待が高まりますが、時間のかかる御研究とのこと、我々同窓も気長に見守らせて頂きましょう。



続いての祝賀会は、加藤 聡専務理事が司会を担当し、福井県歯科医師会会長齋藤愛夫先生初

め、近畿一円から多くの同窓の先生方にご参集いただきました。西原学長のご祝辞に続き、三名の大坂府の大学教授からもお祝いとお励のお言葉を頂戴いたしました。大阪歯科大学歯学部歯科麻酔学教室教授 丹羽 均先生、近畿大学理工学部生命科学科教授 辻内 俊文先生、近畿大学医学部附属病院歯科口腔外科教授 濱田 傑先生(ご祝辞を司会者代読、二次会に御来席)の三人の先生方です。その後、沖永先生のご挨拶の後、滋賀県同窓会会長 横木 薫先生に乾杯の御発声を頂き、沖永先生を祝う会が始まりました。大阪府同窓会の若手の先生が、沖永先生を祝う『沖永半端ないっつ』と印刷された赤い特製のT

シャツを用意下さり、先生に祝賀会の間ワイシャツの上から着ていただきました。同窓会員がひっきりなしに沖永先生を取り囲み、皆でお祝いの言葉をかけ続けさせて頂いた約2時間はアツという間に過ぎ、最後は砂野 彰宏総務理事のメール、全員での校歌斉唱、オオトリは青木修一副会長の爆笑閉会の辞でお開きとなりました。続いて二次会が始まり、真夜中まで祝賀の会が続きました。

下出 一夫(大29期)



御 挨拶

大阪歯科大学 細菌学講座 主任教授

この度は、九州歯科大学大阪府同窓会主催にて、教授就任祝賀会開催頂き、誠にありがとうございます。この場をお借りして、九州歯科大学大阪府同窓会会長 岡谷親男先生をはじめ役員の方、ご臨席頂いた同窓会の先生方、そして、恩師でもある九州歯科大学 理事長・学長 西原達次先生に厚く御礼申し上げます。

2018年6月1日付けで、大阪歯科大学細菌学講座 主任教授を拝命しました沖永敏則(50期)です。自己紹介をさせていただきます。2002年に九州歯科大学を卒業後、第1口腔外科での臨床研修医を経て、九州歯科大学大学院歯学研究科に入学しました。感染分子生物学分野(旧:口腔微生物学講座)専攻にて、「Role of caspases in the induction of apoptosis in macrophages infected with the periodontopathic bacterium」簡

単に言いますと、歯周病細菌感染マクロファージにて誘導されるアポトーシス(細胞死)のシグナル解析を博士論文とし、国際誌に投稿しました。博士(歯学)取得後、すぐにアメリカ オクラホマ大学歯学部 Health Sciences Center の Justin Merritt 博士の研究室でポスドクとして2年間研究に従事しました。主に、齶蝕原性細菌、歯周病細菌について遺伝子(バイオフィーム関連遺伝子)レベルでの解析を行いました。帰国後は、九州歯科大学感染分子生物学講座にて助教・講師として、歯

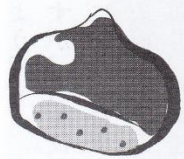
周病細菌を軸に炎症性サイトカイン産生メカニズムの解析などの研究を経て、この度、大阪歯科大学細菌学講座に着任いたしました。大阪歯科大学では、最低修業年限での国家試験合格を目標に掲げ、一人ひとりのレベルにあつたきめ細かい教育、寄り添い・育み

指導を展開しています。細菌学講座としても、この目標に邁進すべく、学生が苦手とする基礎系の知識について1年生から6年生まで、学年のニーズに合わせて丁寧な講義を行っています。また、研究においては、宿主-寄生体関係の観点から、寄生体として口腔細菌叢の解析を軸に、健康長寿に役立つ口腔常在細菌の探求をすべく研究を展開しています。また宿主側として、細菌感染に応答する免疫細胞を主体に、その応答メカニズムについて分子生物学的解析を行っています。さらに、企業や他大学、他分野との共同研究を積極的に行い、社会に貢献できる研究展開を目指しております。また、着任早々で、若輩者であります。が、講座員一同で、探求心豊かな研究室作りを行ってまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

周病細菌を軸に炎症性サイトカイン産生メカニズムの解析などの研究を経て、この度、大阪歯科大学細菌学講座に着任いたしました。大阪歯科大学では、最低修業年限での国家試験合格を目標に掲げ、一人ひとりのレベルにあつたきめ細かい教育、寄り添い・育み



指導を展開しています。細菌学講座としても、この目標に邁進すべく、学生が苦手とする基礎系の知識について1年生から6年生まで、学年のニーズに合わせて丁寧な講義を行っています。また、研究においては、宿主-寄生体関係の観点から、寄生体として口腔細菌叢の解析を軸に、健康長寿に役立つ口腔常在細菌の探求をすべく研究を展開しています。また宿主側として、細菌感染に応答する免疫細胞を主体に、その応答メカニズムについて分子生物学的解析を行っています。さらに、企業や他大学、他分野との共同研究を積極的に行い、社会に貢献できる研究展開を目指しております。また、着任早々で、若輩者であります。が、講座員一同で、探求心豊かな研究室作りを行ってまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



第38回在阪各歯科大学同窓会 役員懇談会の当番校



加藤 聡 (大33期)

平成29年12月9日(土) 18時から九州歯科大学大阪府同窓会が当番校を務め第38回在阪各歯科大学同窓会役員懇談会がリーガロイヤルで開催されました。当日は在阪の各歯学部、歯科大学同窓会23校134名の役員が一堂に会し親睦を深めました。

この当番校は順番に回っていて、その年の春先に、前年度当番校だった大阪歯科大学から各種資料を引き継ぐところから準備が始まります。引き継いだ資料には、過去数年間の当番校が作成した各種資料が含まれているので、それを参考にすれば当番校が務まるようになっています。

主な流れは、春先に資料の引継ぎ、夏場に開催概要の案内発送、秋口に開催告知と出欠とりまとめを依頼する案内状の発送、12月に開催、翌年の春先に次回当番校へ資料引き渡しとなっています。大阪府歯科医師会の会長や専務にもご臨席いただくので、そちら方面への連絡に気を使います。また、今回は歯科医師会会長の任期途中の開催だったので問題ありませんでしたが、会長選挙にかかる年の当番校は、なにかとややこしく、

かなり大変なようです。

さて当日ですが、当番校なので開催1時間前に全員集合です。九州歯科大学大阪府同窓会からの出席者は、岡谷親男、西本達哉、青木修一、長崎三男、谷泰雄、黒澤治彦、大形篤広、竹森康仁、岡田克也、岡本達也、松本隆司、重永拓郎、東江正裕、加藤聡の14名。そして受け付け担当で高濱勉、壺井莉理子、勝村麻美、横山絢美の計18名。大阪府同窓会の総力戦です。受け付けから閉会後のお見送りまで気の抜けない緊張の連続でしたが、懇親会は盛況のうちに無事、終えることができました。



閉宴後、場所を淀屋橋に移しての打ち上げで飲んだビールが、とてもとても美味しかったです。

平成29・30年社保講習会

平成29年社保講習会

1月29日(日)、鳥よしにて社保講習会が開催されました。

講師は例年通り、大阪府歯科医師会医療保険担当常務理事の林正純先生です。

平成28年度診療報酬改定の基本的考え方を示され、我々歯科分野における改定箇所を詳細に説明されました。

「地域包括ケアシステム」が進んでいるため、「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」が設定され、う蝕治療、歯周治療、在宅診療がより評価されました。しかし、施設基準のハードルが高く、大阪府では、平成28年10月1日の時点で届け出済み医療機関は7.9%だそうです。

ちなみにエナメル質初期う蝕管理加算の病名はCeで、年齢制限はなしです。

また、林先生のお勧めは、歯科治療総合医療管理料(医管)の新設に新設された「医管(Ⅱ)」の算定です。全身的な疾患を有する患者の治療の際、バイタルサインのモニタリングを経時的に行えば、1日につき45点算定できます。歯科衛生士が担当しても可です。また、医科からの情報提供も不要です。もちろん施設基準の届け出は必要ですが、大阪府では平成28年9月1日現在で43%だそうです。いずれにせよ、時代の流れに適応した診療体制、また治療内容、技術が必要かと思われまます。去年も書きましたが、クラウン・ブリッジ維持管理料(補管)の届け出しか行わず、積極的に訪問診療も行っていない私にとって、大変な時代の到来です。

黒澤 治彦 (大30期)

平成30年社保講習会

平成30年1月28日(日)午後3時より、鳥よしにて社保講習会が開催されました。

岡本達也学術理事の司会の元、大阪府歯科医師会医療保険担当常務理事、支払基金審査委員の林正純先生に講師をお願いし、4月1日の診療報酬改定を控えた1月末現在における社会保険のルール、及び改定情報をご指導いただきました。

10月になったところですので、歯科初診・再診料の改定も、施設基準の届出書を提出した上で始まったところと思いますが、施設基準の届出の少ない小規模診療所にとっては、従来通りの診療では保険点数が上がりそうもありません。訪問診療を初め、社会情勢に即した診療体系を考えていかなければなりません。



また、他の歯科医療機関、及び、医科の医療機関との連携をしっかりとっていくことが、自医院の経営、ひいては患者さんのためになる事と考えます。

その他の講習内容として、いつものように、歯周病の算定にあやふやなところがないように、基本治療、安定期治療の確認、また、同一初診でのC・Ce・H・Ys算定の注意事項、補算定やリベール算定時のルールなど、きめ細かくお話ししていただきました。また、林先生には、個別の質問には、続いている新年宴会の席上でも対応いただきました。

下出 一夫 (大29期)

平成29・30年新年会

平成29年1月29日(日)午後5時 於 千日前鳥よし本店
平成30年1月28日(日)午後5時 於 千日前鳥よし本店

H29年の新年会は、前年に御卒業され大阪にて卒後研修を受けられている若手の先生方が8名御出席下さり、雲川秀雄先生の司会の元、賑やかに始まりました。

冒頭で、H28年10月24日に大阪市西区北堀江のオフィス街にてご夫婦で開業された大56期の吉田和史先生、佳緒里先生がご挨拶されました。ここかしこに楽しい会話の花が咲き乱れ、時間の経つのも忘



れ、最後に集合写真撮影をして、三々五々鳥よしを後にしました。

H30年の新年会は、少し寂しい約30名の御出席で、最近では珍しく女性会員は0名、そして、卒業間もない若手の先生も少ないようでした。岡田克也先生の司会で、長崎三男副会長の開宴のことは、続いて西本達哉先生の乾杯の御発声に始まり、あちらこちら楽しそうな会話で盛り上がり、谷泰雄副会長の閉宴のことは締めとなり、恒例の集合写真撮影でお開きとなりました。

来年は、元号の代わる節目の年です。社保講習会・新年会は、毎年、1月の第四日曜日午後三時から開催を予定しておりますので、同窓の皆様お誘い合わせの上ご参集いただき、皆でほっこりいたしましょう。

下出 一夫 (大29期)



平成二九・三〇年度 定時総会、懇親会、 学術講演会



大阪府同窓会報「なに歯だより」の名付け親で広報担当常務理事の下出先生から、平成29年度総会、懇親会と平成30年度総会、懇親会の原稿依頼がありました。引き受けはしましたがヤバイです！なにがヤバイかって、これまでも総会、懇親会の原稿依頼はあったのですが単年度ごとでした。その場合、前年度の原稿をコピーして日付をちよちよいと変えて、文章を入れ替えてみたり接続詞もちよちよと変えてみたり・・・

なんてこと、するわけありません！いつもゼロから原稿を作成し、推敲に推敲を重ね、まるで流石作家が缶詰になりながら原稿を仕上げるような難行苦行を毎年重ね・・・

閑話休題。無駄話が長くなってしまいました。本題に入ります。平成29年度総会、懇親会と平成30年度総会、懇親会の報告です。式次第を丸写ししたような報告

記事を書くかと思いましたが、総会は毎年、平穩無事にシャンシャンで終わるので、内容がほぼ同じです。紛糾したら報告記事の書き甲斐もあるのですが、その前に専務の私は総会で死んでます。懇親会も「にぎやかに盛り上がりました」で終わり。同じような記事が二つ並んでも誰も読まないのは目に見えてるので、今回は二つまとめて報告します。



まず、総会の詳細な報告ですが、いきなりですが割愛です。詳細を知りたい方は大阪府同窓会ホームページの会員専用ページに載っていますので、そちらをどうぞ。さてさて、いよいよ、ようやく、今度こそ本題です。(今回はムダに引つ張っています。紙面が足りなくなろうと、印刷代がかかろうと、広報委員が編集に苦労しようとおかまいなし！)平成29年度と平成30年度の総会、懇親会ですが、平成28年度までと大きく様変わりしました。な



平成28年度まで、大阪府同窓会の総会や懇親会は講演会講師以外の来賓はゼロでした。お金がかかりそうなことを極力避けるのが大阪府同窓会のポリシーです。ところがところが！

平成29年度の懇親会には大阪府歯科医師会会長の太田謙司先生を来賓でお招きしました。

さらにさらに！平成30年度の総会、懇親会には太田謙司先生に加え、九州歯科大学同窓会会長の片山幹夫先生、九州歯科大学理事長・学長の西原達次先生までお招きし、講演会講師でお招きした九州歯科大学教授の大渡凡人先生と合わせて、なんと4名もの来賓！来賓用と主催者用の胸リボンまで新調してしまいうれ込みみようです。(ちなみに、胸リボンを前年度に専務が紛失し新調せざる



を得なかつたのはトップシークレットです)

増えたのは来賓だけではありません。総会で毎年報告している会員数も、このころうなぎのぼりに増えています。10年20年前まで大阪府同窓会の会員数は80名程度だったのですが、今や150名を超す勢い。都道府県別の会員数で見ると、九州以外の都道府県では、そろそろトップに躍り出てると思われまじし、九州を含めた全体で見渡しても、福岡県を除いたトップスリー(熊本、大分、長崎)の背中が見える会員数になつ

てきました。

若い世代の会員が増え、その若さと勢いを実感でき、大阪府同窓会の将来をとて楽しみを感じた平成29年度、平成30年度の総会、懇親会でした。

加藤 聡(大33期)

平成29年度九州歯科大学 大阪府同窓会学術講演会

平成29年度九州歯科大学大阪府同窓会学術講演会は、内藤真理子先生(名古屋大学大学院医学系研究科予防医学分野 准教授 九州歯科大卒 大39期)をお招きし「食べることは生活の質にどのような影響を与えるのか…摂食嚥下障害とQOLの検討」という演題でご講演頂きました。

まず、脳卒中や認知症の患者にとって克服すべきものとして、フレイル(虚弱)やサルコペニア、骨粗鬆症、ロコモティブシンドロームなどが挙げられます。特に、我々歯科医師が関係するオーラルフレイル(口腔機能の虚弱)は、患者のQOLに非常に影響を及ぼすことが分かっています。具

体的にオーラルフレイルを分類すると、第一段階(社会性フレイル期)、第二段階(栄養面フレイル期)、第三段階(身体面フレイル期)、第四段階(重度フレイル期)と悪化度が変わってきます。第四段階まで進むと回復は困難と考えられるため、介護予防には口腔機能(咀嚼、嚥下、会話、呼吸など)の向上が大切になると述べられました。

次に介護患者の摂食嚥下障害とQOLについて解説されました。一般的にQOLはスローガンやキャッチフレーズとして使われることが多いのですが、医療においては重要なアウトカム指標(医療等の実施により発生する効果、成果を表す指標)としてQOLを位置づけ、研究や臨床に役立てています。

また、疫学調査により、エビデンス(足場となる一般論)と共にナラティブ(語り、体験記、闘病記など)な情報も取り入れ、より患者の心情に迫ろうという試みも行われているとの事です。特に胃ろう患者の主介助者を対象とした研究では、医師は誤嚥の危険を犯してまで食べることにこだわるの

か疑問を呈するが、介助者はできるだけ食べさせてあげたいと思っ

ている場合が多いと述べられました。経口摂取の意義としては、食の楽しみやコミュニケーションの獲得、また、その効用として全身の機能回復に影響を与えるとの事です。

健康日本21の目標である「健康寿命の延伸及び生活の質の向上の実現」に向けて、摂食嚥下障害に対する注目度がいっそう増しており、我々歯科医師がどのように介護患者やその家族に向き合っていけば良いのかを考える上で、非常に有意義な講演会でした。

岡本達也(大40期)

平成30年度九州歯科大学 大阪府同窓会学術講演会

平成30年度九州歯科大学大阪府同窓会学術講演会は、大渡凡人先生(九州歯科大学 口腔保健・健康長寿推進センター教授 大31期)をお招きし「高齢者歯科治療における全身管理(リスクマネジメント)」についてご講演頂きました。



岡本達也(大40期)

今回の講演では、我々
歯科医師が安全な歯科医
療の実現のために何をす
べきかを学ぶ貴重な機会
となりました。

全身疾患を持つ高齢歯科患者は
年々増加し、同時に全身的偶発症
のリスクも高くなっています。そ
の上、医療事故の対する社会的制
裁は非常に厳しいものになってい
ます。

した。
高齢者の歯科治療におけるリス
クを「予防」、「早期発見」、「対
応」の3つに分けて考え、その中
で我々にとって最も有効なのは
「予防」であり、また、特に高齢
者の全身的偶発症は循環器関連に
原因があることが多いため、循環
器疾患の「予防」に関するリスク
マネジメントが最も重要であると
解説されました。
診療を行う際、高齢者の病歴を
把握する事が必要ですが、高齢者
の病歴聴取は困難な場合が多く、
その理由として複数の全身疾患を
長期間合併し病歴自体が複雑、記
憶力低下、聴力障害、認知症など
で聞き出すのが技術的に難しい等
挙げられ、患者情報の重要なアイ

テムとして、お薬手帳を必ず見せ
てもらおうように述べられました。
お薬手帳から得られる情報を例
にして挙げますと、病歴聴取で不
明であった疾患が推測出来る(例
エリキユース…心房細動、アリ
セプト…認知症)、疾患の重症度
が推測できる(例 ソタコール、
アンカロン…重篤な不整脈)、抜
歯後出血の可能性が分かる(例
イグザレルト、リクシアナなど)、
免疫能低下の可能性が分かる(例
プレドニゾン、リマチルな
ど)などがあります。

と述べられました。
一般的に高齢者は血圧変動が著
しく、特に精神的ストレスで大き
く変動し、その結果脳梗塞や心筋
梗塞などの二次的な全身疾患に移
行する事があり注意が必要で、そ
の対応として疼痛対策、深呼吸を
ゆつくりと行わせる、また特に男
性の場合尿意を確かめるなどが挙
げられますが、重要なのは血圧上
昇の予防(治療当日の降圧剤服用
の確認、不安や緊張をできるだけ
小さくする等)を心がけることで
す。



九州歯科大学大阪府同窓会 平成 30 年度役員

会 長 岡谷 親男 (大 27 期)

副 会 長 青木 修一 (大 29 期) 広報、モニター 長崎 三男 (大 29 期) 組織
谷 泰雄 (大 31 期) 総務

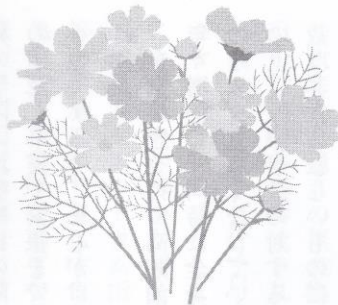
専務理事 加藤 聡 (大 33 期)

常務理事 下出 一夫 (大 29 期) 広報 黒澤 治彦 (大 30 期) 組織 大形 篤広 (大 33 期) 会計
東 昭平 (大 38 期) 総務 岩田 和久 (大 38 期) 学術 岡田 克也 (大 39 期) 福祉、組織

理 事 竹森 康仁 (大 33 期) 総務 遠藤 佳代 (大 33 期) 会計、リーフの会
山下 美枝 (大 33 期) 広報、リーフの会 安東 基良 (大 36 期) 組織
砂野 彰宏 (大 37 期) 総務 雲川 秀雄 (大 39 期) 組織 岡本 達也 (大 40 期) 学術
高濱 勉 (大 40 期) IT、学術 松本 隆司 (大 44 期) 福祉、組織 千田 大誠 (大 48 期) IT
富山 康二 (大 50 期) 学術、組織 平川 俊秀 (大 51 期) 福祉、組織
大野麻衣子 (大 51 期) 広報、リーフの会 小谷 力 (大 51 期) 総務
重永 拓郎 (大 53 期) 総務 東江 正裕 (大 54 期) 学術

監 事 倉田 博幸 (大 27 期) 西本 達也 (大 28 期)

相 談 役 古庄 列 (大 7 期)、松本 泰雄 (大 9 期)、丸山 輝幹 (大 14 期)、鳥羽 英紀 (大 15 期)
戸倉 良樹 (大 19 期)、小野 善弘 (大 20 期)、阪上 安輝 (大 21 期)、濱田 傑 (大 26 期)、
丹羽 均 (大 32 期)



【メルアド、住所等変更届のお願い】

宛先不明で戻ってくるメールや郵便物が多く、担当者が大変困っています。
メルアド、住所、勤務先が変わった際には忘れずにお知らせください。

メールでの連絡先

九州歯科大学大阪府同窓会
kdcosaka@gmail.com

郵便での連絡先

〒 555 - 0012 大阪市西淀川区御幣島 1 - 3 - 9
スモカビル 2F 岡谷歯科医院内
九州歯科大学大阪府同窓会事務局

診療・経営の ヒント

開業16年を 振り返って、 そして、これから

大39期 楠元 貴司

開業して16年が経ちました。診療経営のヒントと言えるかわからないですが、50歳を過ぎた今、開業後の自分を振り返って、後輩の先生方に何か参考になればと思いい書いてみました。

口腔外科専門医

10年以上口腔外科に身を置いていたため、口腔外科専門での開業も少し考えましたが、地元で沢山の患者さんが来てもらえるかかりつけ医として開業しました。

開業して最初の3年くらいは、よく手術をしていた口腔外科のない総合病院から顎骨骨折の依頼があり週末や夜に手術に

行ったり、保険の制度が変わるまでは外科矯正手術も自分でしたいました。

40歳を超えたころからは、勤務医への教育に重点を置くようになり、失敗は、重大な後遺症を引き起こす可能性があるため、どこまで経験させるかは本当に難しいです。でも、経験して怖さを知ってもらうことも大事なので、ギリギリまではさせるようにしています。肝を冷やすことは多々ありませんが(笑)。

病院で勤務していた経験のおかげで、医者や薬剤師、看護師など他職種との連携を、開業直後から何の抵抗もなくおこなってきました。当院の勤務医を見ていても、

最初は医学的な知識と薬の知識があまりにも乏しく、医者や薬剤師と対等に話や手紙をやり取りできないので、口腔外科の研修や勉強は必須だと思っています。

地元交野での開業

開業するのを心待ちにしてくれた実家の近所の方々や同級生

達が診察に来てくれるのは本当に嬉しいです。最近は歯科医師会の仕事で市の職員とコンタクトを取る機会が多くなっていますが、教育長が担任の先生だったり、職員が同級生だったり、いつも連携している内科の先生も高校の先輩だったり、地元ならではのネットワークがあります。

人口7万6千人程度の小さな市



開業して16年が経ちました。診療経営のヒントと言えるかわからないですが、50歳を過ぎた今、開業後の自分を振り返って、後輩の先生方に何か参考になればと思いい書いてみました。

なので、都会と違ってアットホームな感じなのが良いです。最近の若い先生達は、あまり地元で開業しないですが、地元での開業は本当にいろんな面でアドバンテージがあると思っています。開業当初より、今になって特に思います。今は人口の20%が一度は来院してくれているので、目標は半数まで来てもらえるように頑張ろうかと思っています。

複数人での診察

開業までは、診断や治療方針を決めるときに他人の意見を参考にしたり、議論することが日常だったので、開業して1年はひとりでの診察して孤独な1年でした。同時に、病気や怪我で休んだら、たちまち経営のリスクがあるので、複数人での診察は必須だと強く感じていました。幸いにも、2年目からは常勤の勤務医が来てくれて、以降は多くの勤務医が働いてくれています。勤務医を雇うことは、クレームが増えたり煩わしいことでもあります。自分も勉強になることも沢山あるので、大規模病院

にしてよかったなと思っています。昔は勤務医ともそんなに年齢差がなかったのですが、俺も負けないようにとライバル視して頑張っていました。最近では20歳くらい若い勤務医がどんどんスキルアップしているのを見てると本当に嬉しくなります。スポーツの監督の心境ですね。

以前働いていた先生が医院に遊びに来て、開業して沢山の患者さんに来てもらっている話を聞くと、自分のこと以上に嬉しく思います。弟子を育てる一番の醍醐味です。

今後

当院でも、治療にいられた方が来院できなくなり在宅診療の依頼が急増しています。必然的にシフトせざるを得ない流れです。今、父親が認知症、脳梗塞、嚥下機能障害で入院しており、何とか少しでも回復させたいと思ひ勉強中です。毎日、昼休みに口腔ケア、嚥下機能訓練をしています。が、思うようにいかないことが沢山あります。歯科医師が摂食嚥下

に関わることを否定的に思っている医者や看護師もまだまだいるので、彼らを納得させられるように、もっと頑張らないといけないと強く思っています。

大阪府同窓会ITを担当して 高濱 勉(大40期)

40期の高濱です。HPの作成等をはじめとする大阪府同窓会のITのお仕事を仰せつかり、岡谷会長を始めたくさんの先生方に日頃からお力添えを頂きながら今日まで参りました。従来は行事の案内はハガキだったのが、FAXかメールに移り変わり、そしてfacebook、LINE、TwitterなどのSNSが入ってきました。

始めの頃はITを同窓会のお仕事にどう使うのかということが命題でありました。そこで大阪府同窓会のfacebookページを作成し、HPと連動して行事のお知らせや報告を行うようになりました。そして次にLINEが登場しました。LINEは特に若手の先生方や学生

諸君とのコンタクトをとるのに大変有用です。特に今年には元祖サマー懇親会の開催に際して、幹事の松本隆司先生の見事な采配で参加者が120名を超える大盛況となり、連絡網の構築に大変有用な手段であることが実証されました。Twitterもまた高校生大学生を中心に根強いSNSとして盛んに活用されています。

現在はITをどう役立てるかということが命題になるなど、その位置づけが変わってきていることを実感します。そしてそれを受け取る年代層も20代から70代と幅広く変わりました。誰がどのタイミングで、誰を対象に情

今後は、「治療中心型」から「治療、管理、連携型」にますます需要がシフトするので、地元のかかりつけ医として多くのニーズに対応できるように頑張っていきます。

報を発信していくか、本当に問われる時代になってきていると思います。本部同窓会のHPもこのほど大きくリニューアルされ、未入会や女性会員へも情報発信をするようになっていきます。

大阪府同窓会のサイトでは、出来るだけたくさん写真の載せ、次の行事に行きたくなる楽しいページ作りを努めておられます。同窓会の行事でお撮りになった写真はHPとfacebook、LINEに限定して掲載いたします。

また動画の投稿も歓迎致しますのでお寄せください。画像ファイルの提供はメール、LINEやfacebookのメッセージ、撮影されたSDカードの提出いづれの方法でも可能です。

会員専用ページでは、役員会や総会の議事録、学術講演会の抄録、会員の勤務先限定した名簿などを掲載しています。パソコンやスマートフォン、タブレットからも見ることが出来ます。パスワードを入れてログインして頂くと同窓会可能です。行事に参加できなかったけれども議事録を見てみたい方や学術講演会の内容を知りたい方、年賀状の住所をお調べになりたい方、ITだからこそ活用できるHPとして作り上げていく所存です。HP閲覧についてご意見、ご質問、パスワードのお問合せ等ございましたら高濱までお知らせください。今後とも、より一層参加したくなる大阪府同窓会を目指して楽しいHPを作っていきますので、先生方の尚一層のお力添えを宜しくお願い申し上げます。

人手不足待ったなし！ 雇用情勢と医療政策を見据えた 歯科医院経営

大46期 福重 真佐子

2年前、自分が運営に関わるスタートアップグループの経営セミナーで「衛生士の採用」をテーマに取り上げました。その頃は人手不足に関して今ほど深刻に捉える人が少なく「なんだか最近採れないなあ、景気が良いからかなあ」といった雰囲気でした。私はその講演の中でこの本を紹介しました。

「なぜローカル経済から日本は甦るのか」

著：富山 和彦

- ◆単にアベノミクスで景気が良くなったから人手不足になっっているのではない。
- ◆人口動態的に労働者人口が激減する時期に差し掛かっている。
- ◆今後、人手不足は苛烈を極める

ようになり人手不足倒産が増える。

といったことを話しました。あれから2年、ニュースなどでも人口動態と人手不足を結びつけ、大企業が血眼になって人手の確保を行っている姿が繰り返し報じられるようになりました。つい先日にも歯科医院の人手不足倒産がニュースで全国に配信されていました。

歯科医院といえば、どんなに大きくてもただか100名程度の極々零細な企業です。そこに人を集めようというのですから厳しい戦いを強いられるのは目に見えています。

目を転じて、この4月の改定

を見て明らかのように、医療行政は非効率的な小規模歯科医院を減らして中々大規模歯科医院を増やす方向にハッキリと舵を切りました。労働環境整備、安全対策、地域包括医療介護への参加など時代の要請に十分応えるためにはある程度以上の規模が必要との判断です。

ごく少数の職人系の歯科医師を除くほとんど、の歯科医師、特にまだ若い先生や今後数十年にわたって歯科医院を経営する予定の先生はどんなに逆らってもこの時代の流れに巻き込まれることとなります。

特に歯科医院の従業員はほとんどが女性ですので、結婚・妊娠・出産などのライフイベントを経てもキャリアを積み重ねることができるような職場づくりが求められます。労働基準法を遵守することは当然ですが、それ以上の施策によって女性が勤め続けたいくなる職場環境を整備していく必要があります。

私自身これまで管理上の理由から15名前後に押さえていたスタッフ数を今後は大幅に増やし、女性のライフイベントに柔

軟に対応できる体制づくりに取り組んでいる最中です。

現在、勤務医をしている先生方は今後小規模な歯科医院が集約され大規模化し労働条件が改善します。生涯勤務医としてキャリアを全うする歯科医師も増えていきます。逆に開業すれば大規模化は避けて通れません。開業するのか勤務医を続けていくのか、自分の適性をしっかりと見極めて進路を決めなければなりません。



小児歯科を医院経営に活かす

大 53期 重永 拓郎

今回、開業7年目の僕が僭越ながら、医院経営について書かせていただく事になりました。僕自身、医院経営について特別な勉強などはした事がなく、一般論としての医院経営を語る事は到底できませんが、地域の患者さんにとってプラスになる事が、結局医院経営にもプラスになるという自分なりの思いから医院経営に取り組んでいます。

僕が医院経営という面から大切にしている事の一つは、小児の患者さんへの対応です。

以前は小児の対応について、時間が読めない、時間の割に点数が低いなどの理由で正直、苦手意識がありました。しかし、当院の隣が小児科の医院で、周りが新

興住宅地である事から自然と小児の来院が多い環境です。日々、小児の患者さんの対応をしている内に小児歯科の楽しみや経営面でのメリットにも気づくようになりました。また、僕自身、開業後に自分の子供が生まれ子育てを経験する中で、来院する子供や、その家族に対する理解度も変化してきたのだと思います。

僕が、実際取り組んでいる事は、初診と治療に分けて考えています。

初診時は基本的に治療を行わず、患児、保護者との信頼関係作りと治療に必要な写真やレントゲンなどの資料の収集を診察の目的としています。

正直、信頼関係作りと資料の

収集に時間をかけても、なかなか売りに直結する物ではありませんが、保護者の意識、患児の性格などを把握してから治療に入る事で、その後の診療を効率的に進める事ができて、トータル的には時間や費用を節約できていると考えています。

次に治療時、大切にしている事は、治療は無理をしない、治療時はラバーダムをする事です。患児の気分が乗らないと判断した場合、その日の治療は諦めて、治療の練習や、次は必ず治療をする事を、必ず患児と目と目を合わせて約束し、無理に治療を進めな

い事になっています。また、ラバーダムはセットするのに少しだけ時間がかかりますが、治療時間は確実に短縮され、患児は治療の吸引や薬剤の臭いなどの治療の刺激から隔離されるので、治療への協力度も向上し、治療がスムーズに進むと感じています。

以上自分を取り組んでいる事を書いてみましたが、小児歯科で診療しておられる先生にとっては、当たり前の内容となってしまうかもしれません。しかし、小児歯科治療と向き合うことで、自分にも医院的にも日々成長させてもらっていると感じています。



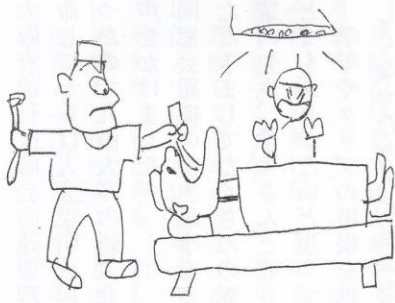
歯科麻酔医

本田 光徳(県3期)



物事を始めるには、その人の個性あるいは多少の時間差はあっても、それに対する動機というか「キッカケ」があると思う。それは、宇野先生が歯科麻酔医になって活躍している記述についてである。

かつては、麻酔認定の医師のみが全身麻酔は可能であった。現在は、全麻の必要な口腔外科領域の手術や処置は歯科麻酔医によってなされるのが、通常となっている。私が阪大より大阪労災病院に着任



した1962年3月より退職するまで、30名余りの歯科医が勤務した。

その時、歯科医としては、最も欠如というか、不足している全身管理を修得するには、麻酔学を学ぶことが、良いのではないかと考えた。そして、当院の麻酔科部長の指導の下で、外科系の手術時の全麻の見学と実地研修をお願いしたのである。勿論、術後患者の全麻覚醒後におけるリハビリ室での看視や処置なども。歯科診療後、約一年間この研修をするということ

を義務化したのである。後日談として、開業または歯学関係の指導者となった方々から、様々な「アクシデント」などの診療中の不測の事態時に、必要な対応が出来たとの知らせを聞く度に、彼等が在職中、私が無理にも強いたことが、正解であったと思う次第である。

故山本克彦前会長(大19期)に未入会対策委員を任命されて

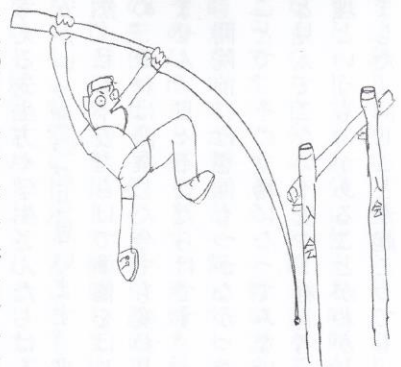
岡田 克也(大39期)

私は平成3年(1991)に卒業後直ぐに大阪で勤務医となり、

すかたん会の先輩の勧めで大阪府同窓会に入りました。半ば強制的でしたが、行ってみると学生時代にお世話になった先輩が少なかつたことに驚きました。翌年になって後輩が来ることもなく約10年ほどその状態が続きました。

当時、大阪府同窓会の新入会員が少ないことが悩みでしたが、故山本克彦先生が平成15年(2003年)新会長になって私に新設された未入会対策委員になるよう指名されました。しかし、会長は就任して間もなく病に倒れて数年間未入会対策は進まず、薬効の甲斐あり現場復帰された時には「個人情報保護法」の壁で大学から卒業生の進路を知ることが出来なくなりました。

そこで山本克彦会長が私にミッションを与えました。「すかたん会に出席して現役学生と仲良くなって連絡を取り合うように。」それから毎年年末にはすかたん会に出て学生さんと個人的に連絡を取り合うようになりました。当時、すかたん会は盛況で卒業生と学生がたくさん参加していました。まずは、同窓会未入会の先輩にお願いしました。すると渡井口先



生(36期)砂野先生(37期)吉田宏先生(37期)が同窓会に入会していただきました。同級生も雲川先生、楠元先生、高濱先生が入会してくれました。しかし、後輩の先生は安積先生(41期)が入ってくれた位で40期台の後輩は厳しい物がありました。まだ学生であった50期台の皆さんとはすかたん会で連絡先を聞いて親交を深めるようになると、卒後はそのまま同窓会入会してくれました。

山本克彦会長が音頭を取り、「サマー懇親会」が始まると新たな未入会の先生と知り合いになり後日同窓会入会を勧めるべく診療所に電話したり、後輩との呑み会に未入の同級生を連れて来て貰い暫くしてから誘ったり(直接的だと引かれると思い)しました。ま

た大阪府歯科医師会の連盟理事を
拜命してからは入会説明会担当と
なったので九歯大卒の新入会員に
も声をかけました。

同窓会組織の担当理事をさせて
いただきましたとくさんの先輩、
後輩の先生、学生さんと知り合え
てとてもありがたいと思っていま
す。学年やクラブの垣根を越えて
親しくなった友人が私の財産に
なっています。気が付けばもう私
は50を越えて、学生さんとは親子
ほどの年齢差があります。つきま
しては後輩の先生に引き継いでい
ただき益々同窓会を盛り上げて欲
しいと思います。

九歯大の縁

岡田 八栄 (大54期)

生まれも育ちも九歯大のある
『小倉』だった私が結婚を機に大
阪へ来て早7年。

学生時代に一度だけ旅行に来た
際の大阪の印象は最悪で、信号が
青に変わると闘牛のような勢いで
人が交差する阪急前の横断歩道、
友達でしたっけ？っと思っしま
うほど距離感の近い強烈な大阪弁

で接客する店員さん、物凄い人で
常にゴチャゴチャした大阪駅。田
舎者の私からしたら縁遠いもの
で、もう二度と来ることは無い
な・っと思っていたのに、永住
する事になってしまいました。大
阪生活が始まって間もなく、大阪
に知り合いが皆無の私を、大学時
代の部活の先輩が『北摂会』な
る、北摂にいらっしやる先生方と
の交流会に誘ってくれました。こ
の交流会が縁で大阪同窓会に加入
する運びとなりました。大阪同窓
会主催の、秋の妙見山のバーベ
キュー、ザ・女子会、サマー懇親
会等に参加させて頂き、卒業後の
九歯大の繋がりの強さを実感して
います。特に、第1回から参加さ
せて頂いているザ・女子会は、子
育てを終えた先輩方から、働きな
がら子育てする事、子供の進学、
塾選びなど、今まさに4歳と1歳
の兄弟の子育て真っ只中の私が、
遭遇している問題のアドバイスを
頂ける、大変貴重な場になってい
ます。

現在の職場も、縁あって、同じ
男兄弟ママで九歯大のOGの先生
の医院でお世話になっていきます。
子供が小さいので、たくさんご迷



惑をお掛けする事がある中、快く
復職させて頂き、九歯大の縁のあ
りがたさを実感しています。

家事と育児と仕事に追われる怒
涛の毎日の中、私の唯一の休息は、
3ヶ月に一度のペースで開催する、
同じママでもあり、大学同期でもあ
る、滋賀と京都に住む2人との『関
西母の会』です。旦那が働いている
間に、京都のミシユラン☆持ち店の
ランチを食べながら、旦那の文句、
子供の事、仕事の事などを4時間喋
り尽くすというもの。子供を介した
友達ではないので、〇〇君ママでは
なく、大学時代のようなノリで話せ
る、私には無くてはならない休息の
場です。

大阪に来てより一層、九州で培っ
た大学の縁を、仕事においても、
プライベートにおいても実感して
います。そして、『九歯大の縁』が
今の私の支えとなっています。

開業して初めて分かったこ と、そして、これから

瀧澤 徹 (大59期)

はじめまして。この度、同窓会
誌に初めての投稿をさせて頂いた
きます。

私は、この2月1日に東大阪市
の布施駅で歯科医院の開業をし
ました。

歯科医になり、この4月で8年
目になります。最近では以前とは違
い、卒業後から自院開業までの期
間が長くなり、同級生でも、開業
準備をはじめているという噂を聞
くことはありますが、開院・診療
開始までこぎつけたという話はま
だそう多くは聞きません。

開業にあたり、これから開業を
考える先生方や学生さんたちは不
安がいっぱいだと思えます。当
然、私も不安だらけで準備をはじ
め、それは開業した今でも変わり
ません。日々不安だらけです。

開院前には想像もつかなかった
ことで、その立場になってみない
と見えてこない不安や、経営者心
理というものがわかってきました。
同じことが起こっても、

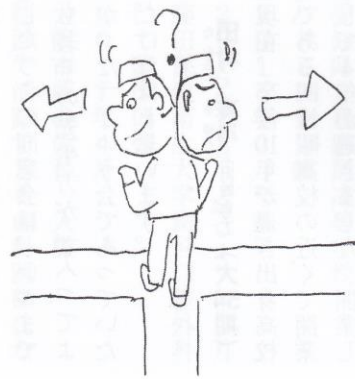
受け取り方が勤務医時代とは異なることも多々あります。

開業前、私は研修医時代の勤務先も含め、3つの職場で働かせてもらいました。病院の雰囲気も診療スタイルもそれぞれ異なる職場でした。今の私の診療スタイルや開業にあたっての医院のコンセプトは、これらの職場で見たり聞いたり体験してきたことが混ざり合ったような形で出来上がりました。働いている当時はまだ力不足で理解できなかったことも、紆余曲折を経て、私なりに消化し、最近になってわかってきたこともあります。

それらに気づくきっかけを与えてくれた、先輩や上司、同僚の方々には感謝しております。気づくのには時間がかかったことも多く、迷惑だけをかけた事柄も多々あります。

今後、もし私に伝えるべき後輩や部下ができたなら、今まで教わり、理解してきたことを、次の世代に伝えていきたいと考えています。そして、私自身も、新しい領域に挑戦し、開院をゴールと考える、成長していきたいと思えます。

まだまだ自分自身道半ばですが、今の自分の経験が、これから開業を考える先生方や学生さんたちに力になればと思います。また機会があれば同窓会で遠慮なく声をかけてください。



医科歯科連携について

本城 裕也 (大62期)

先日、ひよんなことから産婦人科の先生とご飯をともにする機会がありました。その先生は熱心な方で、地域医療への貢献や医科歯科連携の重要性について語られ、大いに盛り上がりました。

最近では医科の先生方からも歯科との連携を叫ばれるケースが増えてきているように感じます。近頃は大学教育でもしつこいぐらい

医科歯科連携の重要性については教わるので、私のように卒後5年目くらいの先生であれば、抵抗なく当たり前のように受け入れられると思います。

しかし、その先生は、旧態依然とした歯科業界の中においては必ずしもそうではないのではないかとおっしゃられていました。お話しを詳しく聞くと、医科の先生の熱量が高かったとしても歯科の先生の反応が薄いことが多いそうなのです。こういう機会を歯科の飛躍のきっかけにできればいいのですが…。

それにあたり、産婦人科は連携の意味が分かりやすく、連携しやすい科であると感じました。妊娠性の歯肉炎に罹患している妊婦さんも多いですし、安定期以外に智歯周囲炎になってしまつては服薬もためらわれるので大変です。そんなの磨かない妊婦さんが悪いよ、と思うかもしれないですが、啓蒙や妊婦検診の徹底ができていない医師の責任もあると思います。

私の妻は同級生で歯科医師ですが、妊娠中や子どもが生後半年の現在でも私が言ってもそこまで丁寧にブラッシングをしている様子

ではありません。傍から見るともどうしても自分に使える時間がないのです。ですから、一般の方を磨かないのが悪いと一蹴してしまふのは酷だと感じます。産婦人科の先生も母子手帳の歯科検診の項目はそこまで重視して確認していないし、特別に指示することも少ないと反省されておられました。そして院内のスタッフの意識から変えていかねばならないとも話しておられました。まずはこういう現状を打破してみるところから連携してみたいかがでしょうか。妊婦の口腔内環境改善から生まれてくる子どもの口腔内環境を守る。私はそういうところから医科歯科連携をしてみようかと考えています。



新入会員の紹介

H28・29年度新入会員の自己紹介

- ① 出身高校
- ② 大学時の所属クラブ
- ③ 卒業後の経歴、現況報告
- ④ 将来の夢
- ⑤ 趣味
- ⑥ 同窓会への要望等

堤下 宗明 (大42期)

- ① 大阪府立寝屋川高校 帰宅部兼学祭バンドドラムス担当
- ② 硬式野球部(学祭クラブ対抗演芸大会女王様役係)
- ③ 医療法人恵歯会複数分院勤務
2003年〜守口市現在地にて開業
- ④ 特にありませんが、最近、地方行政についても少し勉強しておけば良かったなと思う事がありましたので、時間があれば。
- ⑤ ネットでいろいろな検索しています。学生時代には調べきれなかった踏み込んだ内容まで記載されている雑学などがあると、

時間を忘れて読んでしまいます。

⑥ 幹部をはじめ同窓会の先生方には、諸行事を盛りあげ、団結力のある会を維持していただき、ありがとうございます。最近地方の先生とのお話中に「歯科医師会入会のメリットとは？」という話になり、非入会の先生方が多くなったと言っておられました。この同窓会は、いつまでも若手の先生方が「入ってよかった」という会であっていただければと思います。

田村 真弓 (旧姓金子) (大54期)

現在、卒業10年が過ぎ出身高校である四條畷高校の近くで開業して4年が過ぎました。開業してから1年後に出産した娘も3歳になりました。振り返ってみると子供が1歳になるまでが大変だったかなあとと思いますが、当時は必死でわかりませんでした。主人には仕事を辞めて事務

長として診療所をサポートしてもらっています。勤務医の先生達もスタッフも定着し、9月から医療法人として新たにスタート

することにしたので頑張っています。同窓会に入ってから沢山の先輩先生方に可愛がっていただけて心強く感じています。私は両親共歯科医師ではありません。後ろ盾なしでひとりで開業したので、しなくてよい失敗や苦労を沢山しましたがその分、後輩の皆さんには色々アドバイスできることもあると思います。気軽に声をかけてください。

片桐 綾乃 (大56期)

- ① 豊島岡女子学園高等学校
- ② 邦楽部
- ③ 平成20年4月〜平成21年3月
日本大学医学部附属病院 歯科
口腔外科

平成21年4月〜平成25年3月
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯科心身医学分野
修了

平成24年2月〜平成26年3月
University of Minnesota
平成26年4月〜平成29年8月

日本大学歯学部生理学講座

平成29年9月〜現在
大阪大学大学院歯学研究科口腔生理学教室

- ④ 臨床応用可能な歯科基礎医学の発展
- ⑤ 読書・旅行

⑥ 昨年9月より大阪大学への移籍に伴い、初めて関西での生活を始めました。九州歯科大学の同窓の先生方の優しさが大きな心の支えになっています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

橋本 恵 (大56期)

- ① 佐世保北高等学校
- ② 女子バスケットボール部
- ③ 2008年4月 長崎大学病院
臨床研修室、佐世保市立総合病院にて研修

2009年4月 長崎大学大学院歯薬学総合研究科入学
歯科矯正学分野入局
2013年3月 長崎大学大学院歯薬学総合研究科修了
博士号取得

2013年4月〜2017年3月
長崎大学大学院歯薬学総合研究科 歯科矯正学分野 研究

員・医員

2017年4月〜現在 長崎大
学大学院医歯薬学総合研究科
歯科矯正学分野 客員研究員
2017年10月〜現在 大阪府
松原市のしげた歯科・矯正歯科
医院にて勤務

- ④より良い歯科医師になること
- ⑤音楽鑑賞
- ⑥特になし

①関西創価高校
古田 絢也 (大59期)

- ②サッカー部
- ③2001年 九州歯科大学卒業
(大59期)、旧第2口腔外科に
て研修

2012年 九州歯科大学大学
院(顎顔面外科)入学
2016年 九州歯科大学大学
院修了、学位取得、平野区の竹
森歯科医院(大33期)に勤務開
始

- 2017年 日本口腔外科学会
の口腔外科認定医取得
- 現在は引き続き竹森歯科医院に
お世話になっており、日々の診
療に従事しております。
- ④数年後に開業し、地域歯科医療
に関わりたいと考えております。

⑤映画鑑賞

⑥何かお手伝いできることがあれ
ばさせていただきます。今後と
もよろしく願っています。

①愛知県立豊田西高等学校
横山 絢美 (大63期)

- ②バドミントン部
- ③2015年3月卒業

2015年4月〜2017年3月
藤田保健衛生大学歯科口腔外科
にて臨床研修
2017年4月
大阪市藤浪歯科 入職

- ④往診で活躍できる歯科医師にな
りたいです。
- ⑤読書
- ⑥大阪出身ではありませんが、こ
れからどうぞよろしく願いま
す!

①四天王寺高校
木村 友美 (大64期)

- ②美術部
- ③大学卒業後、九州歯科大学小児
歯科にて臨床研修を修了し、外
部研修先の九州歯科大学OBの
福原稔先生のところでは勤務
しております。
- ④技術を磨いて患者様に信頼して

いただける立派な歯科医師にな
りたいです。

⑤図画工作、手芸
⑥年代幅広く交流できるところが
魅力だと感じていますので、こ
れからも気軽に参加できる場
であってほしいと思います。

谷 暢 (大64期)

- ①関西大倉高校
- ②ソフトテニス部 囲碁部
- ③大阪歯科大学附属病院口腔外科
第一科(平成29年)

- ④謙虚であらゆる知識・教養を身
につけた人になること
- ⑤囲碁、将棋、野球観戦
- ⑥特に要望はありません。

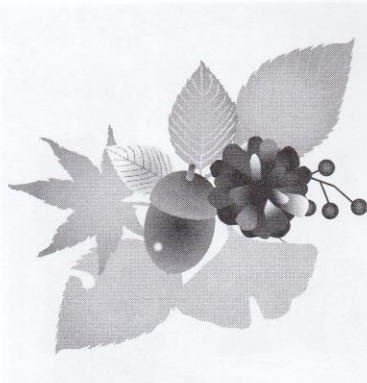
川崎 公輔 (大65期)

- ①函館ラサール高校
- ②柔道部、むしばくらぶ
- ③平成29年4月〜平成30年3月
大阪歯科大学附属病院にて研
修終了

- 平成30年4月
大阪歯科大学部口腔治療学教室
(歯周病科)大学院入学
- 大学では、主に歯周組織再生医
療に関わる研究を行っております。
サマー懇親会やすかたん会

に参加させて頂いていた事もあ
り、大阪府同窓会の先生方には
学生の頃より大変お世話になり
ました。最近私を含め九州歯
科大学を卒業後に関西に戻って
くる学生が多く、多くの同期や
後輩達が大阪で頑張っており、
よき仲間、素晴らしい先輩方に
恵まれて本当に心強い限りで
す。今現在は勤務先での臨床と
大学院での研究に追われ、忙し
い日々を必死に過ごしております。
忙しい合間にお酒で羽目を
外すのが数少ない楽しみとなっ
ております。今後とも宜しくお
願い申し上げます。

⑥いつもお世話になっているので
特にありません。



学 術 講 習 会

リグロスの薬理作用と使用法

大阪大学歯学部付属病院 口腔総合診療部

准教授 野崎 剛徳 (大37期)

平成30年2月4日、大阪大学中

ノ島センターにおいて、長年歯周組織再生剤リグロスの研究、開発に携わっておられる野崎剛徳先生 (大阪大学付属病院口腔総合診療部 准教授)にご講演頂きました。

まず、再生医療とは人体の組織が欠損している場合に、自己修復力をうまく引き出し、その機能を回復させる事を目的とした医学分野であると定義され、再生の3大要素として、幹細胞、足場剤、サイトカインを挙げ、3つが揃って初めて再生が可能となると述べられました。リグロスは3大要素の内サイトカイン (細胞によって産生される生理活性を持つタンパク質) であり、細胞の受容体に働き、増殖、分化の誘導、細胞死の誘導、細胞機能の制御等を行い、

組織修復や再生を導いています。

以前より使用されている、GT R膜やエムドゲインは医療機器 (材料) との位置付けでありましたが、リグロスは歯周組織再生剤 (薬剤) として認可されており、薬理試験や毒性試験等非常に臨床応用に至るまでのハードルが高く、長年にわたる研究、調査、試験を重ね、エムドゲインよりも優位な結果を得る事ができ、かつ現在のところ副作用も全く認められないと述べられました。

次にリグロスの適応症ですが、歯周ポケット4mm以上、深さ3mm以上の垂直性骨欠損であり、根分岐部病変が存在しても使用可能 (エムドゲインは根分岐部病変にはあまり適応しない) で、骨欠損部が何壁性で

も構わない (23壁が最も有効) との事です。また、治療効果を上げるためには、深く狭い骨欠損、角化歯肉が多い部分、動揺が少ない歯牙などケースを選ぶ事が重要だと述べられました。

世界初の歯周組織再生剤であるリグロス開発にあたり、これまでに経験されたご苦労や、いかに優れた薬剤であるかを多くの資料やデータで示され、大変分かり易く有意義な講演でありました。

岡本達也 (大40期)

福 祉 活 動 報 告

平成29年8月19日 (土) 16時より2017年度近畿北陸地区連合会主催サマー懇親会が大阪マルビルにて開催されました。本学より西原達次学長、本部同窓会より片山幹夫会長、丸子裕美子副会長、森章専務理事のご出席を賜りました。大学関係として、近畿大学医学部付属病院歯科口腔外科 濱田傑教授、神戸大学医学部歯科口腔外科学教室 古土井春吾准教授のご出席を賜りました。学生、研

修医を含めて総勢70名を超える出席を得て、1次会を盛大に開催することが出来ました。57期萬代先生と60期村上先生のエキサイティングな司会とグレードアップしたビンゴゲーム大会の賞品が学生参加者に好評でした。今回から就職相談コーナーも設け、現場の生の声を聞けるのは、学生、研修医には非常に有意義な時間であったでしょう。

2次会はがんこ曾根崎本店にて



サマー懇談会 2017

18時30分から開催し、大阪大学歯学部歯科麻酔学教室 丹羽均教授もご出席賜り、1次会に出席が叶わなかった数多くの先生が加わり100名近い参加者で大盛り上がりを得て無事に閉会することが出来ました。

2018年は8月18日(土)18時から開催します。

先日は、平成の若手組が集まり意見交換会(飲み会)を開催しました。新元号でニューオピニオンリーダーとなる学生と研修医に対して魅力的な会にするための活発な意見交換がされました。本年度より、大阪がサマー懇親会の発祥の地であることをアピールするため、開催名を「元祖サマー懇親会」加藤◎と変更しております。今後とも、元祖サマー懇親会をお引き立てのほどお願い申し上げます。

中崎町の秘密倶楽部にて
松本 隆司(大44期)



平成28年度

家族会開催

家族会

平成28年11月6日(日)に妙見山パーベキューテラスにおいて、平成28年度家族会が開催されました。当日はあいにくの曇天で

したが、数多くの先生方、ご家族に参加頂きました。

阪急梅田駅から電車であられた方、車で来られた方が黒川駅で集合し、山頂まではケーブルにて移動しました。パーベキューテラスに到着後は火を起こして、飯盒炊飯、パーベキューの準備を参加者全員で和気藹々と行いました。乾杯の後は、待ちに待ったパーベキューの始まりです。炭火で焼いたお肉、さんまは美味しいことこの上なしです。どのテーブルからも笑い声が聞こえ、あつという間に時間が経つ、楽しい家族会となりました。

東江 正裕(大54期)



平成29年度

家族会開催

平成29年10月15日(日)に妙見の森バーベキューテラスにて、平成29年度家族会が開催されました。当日はあいにくの雨天でしたが、数多くの先生方、ご家族の皆様方に参加して頂きました。



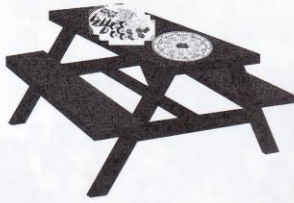
妙見の森バーベキューテラスでの家族会は、大阪府同窓会の恒例行事と言っても過言ではないので、テラス到着後は、参加者全員

馴れた手つきで、炭火を起こし、飯盒炊飯、バーベキューの準備を和気藹々と行いました。

乾杯後は待ちに待ったバーベキューの始まりです。炭火で焼いたお肉、サンマ、野菜どれをとっても美味しいことこの上なはずです。缶ビールも次々と空いていき、あつという間にお開きの時間がやってくる、楽しい家族会となりました。

ご家族連れはもちろんのこと、1人でも楽しく参加できますので、数多くの先生方の参加をお待ちしております。今年も、平成30年10月28日(日)、阪急梅田駅集合で開催いたします。

東江 正裕 (大54期)



第2・3回 ザ・女子会!

第2回 ザ・女子会!

山下 美枝 (大33期)

第1回女子会から早や一年、第2回女子会が平成28年9月24日(土)に梅田で開催されました。今回から近畿北陸地区連合会行事となり、本部同窓会より山口先生が御出席下さいました。

一次会は19時よりヒルトンウエスト6階「燦」。26名の先生がクジで着席。遠藤先生より同窓会の入会案内、渡邊先生より開会の挨拶、山口先生の乾杯のお声の後、食事と歓談が始まりました。途中の自己紹介で次回の出席表明も多々あり、女子会が楽しみな行事の一つとして定着しつつある事を実感しました。宇野先生に御挨拶頂き3時間近い一次会はアツという間に終了。

二次会はマルビル3階「バリラックスザガーデン」21名が自由に着席。話しは尽きる事なく予定時間を過ぎ、「又来年」と弾ける笑顔の散会となりました。

幹事の壺井先生、岩本先生、他にも沢山の先生方の御陰で素敵な会となりました。

平成29年9月30日、第3回ザ・女子会が大阪ステーションシティ・ロドスにて開催されました。本女子会は、近畿北陸地区連合会の援助を受け、大阪、兵庫、京都、滋賀から多数の先生方にご参加頂きました。さらに、同窓会本部より女性交流委員会理事兼委員長の前田依美先生にご出席頂き、総勢25名の華やかな会となりました。

第3回 ザ・女子会!

壺井 莉理子 (大61期)

近北リーフの会担当理事の山下美枝先生より開会のご挨拶、原田依美先生の乾杯のご発声にて第3





流スター
といった
ところで
しょう
か。先輩
ドクター
からは、
こんな人
生もある
のだとい

う沢山のお手本を示して頂
き、若いドクターはこれか
らの夢を語り、あつという
間に閉会の時間となりまし
た。
近北副会長の渡辺雅子先
生のご挨拶の後、二次会
へ。遠藤佳代先生の乾杯に
始まり、新しいメンバーも
加わって大いに盛り上がり
ました。終電前に無事全行
程を終了したものの、そこ
から三次会に繰り出す呑兵
衛が数名。午前二時半ま
で、仕事と家庭の悩み、今
後の人生のこと、小倉の今
と昔について語り合い、今
度もタクシー組が出るとい
う九歯らしい女子会となり
ました。
多くの先生方から、楽し
かった、また来たいとお
言葉を頂いております本女
子会は、今年度より毎年9
月の最終土曜日に開催する
ことが決まりました。関西
地区女性会員の皆様、ぜひ
奮ってご参加ください。

回ザ・女子会が幕を開けました。
初参加の先生方も、同窓ドク
ターということで、初めて顔を合
わせる先輩、後輩とも話が尽きる
ことはありません。また、以前の
女子会で顔見知りになった先生と
一年ぶりの再会を楽しまれる方も
多くいらっしゃいました。

近況を交えて自己紹介をして頂
くと、診療でいっぱいいっぱいだ
と話す一年目の先生、子供第一で
育児と仕事の両立を頑張っている
先生、バリバリ診療をこなして
家事は二の次三の次とおっしゃる
先生等、それぞれの世代、立場の
いろいろなお話を聞くことができ
ました。余暇の癒しは愛犬、愛
猫、スポーツに子供の笑顔、韓

『育菌のススメ』

エッセイ 第八回

山下美枝 (大33期)

平成29年度の国民医療費は約
42兆円。国家予算約97兆円の内、
税収は約57兆円で残りの約4割は
借金。又寝たきり(不健康)期間
は欧米諸国では7年前後であるの
に対し、日本人男性は9年余、女
性は13年弱と世界一。少子高齢化
が更に進み医療費等の社会保障費
が増え続ける日本。この国の未来
は一体どうなるのでしょうか。健
康でいる事は本人や家族の幸せで
あるのは勿論、国の幸せにも繋が
るのです。

そこで注目したいのは腸。腸は
免疫機能の70%を司り心身の健
康、美容、ダイエットなどにも関
与し、腸が健康なら90%の病気を
防ぐことができるとも言われてい
ます。腸には多くの細菌(百種、
3万種、百兆個〜千兆個、重さ
1.5〜2kg)が生息し、その姿

は花畑(フローラ)に似ているた
め腸内フローラと呼ばれます。腸
内細菌はその働きにより、次の3
つに大別されます。

- ① 善玉菌(ビフィズス菌・乳酸菌・納豆菌など)
免疫力を高め幸せホルモンを産
生し、ビタミン合成も行う。ス
トレスや加齢等で減る。
 - ② 悪玉菌(ウェルシュ菌・大腸菌
有毒株・ブドウ球菌など)
腸内細菌のバランス維持に不
可欠であるが、増え過ぎると
善玉菌の働きを抑制する。ス
トレスや加齢等で増える。
 - ③ 日和見菌(バクテロイデス・大腸
菌無毒株・レンサ球菌など)
①と②の優勢な方の味方をす
る。
- 腸内環境はこれらのバランスで

決まり、善玉菌が2、悪玉菌が1、日和見菌が7がベストバランスです。

腸内環境を良くするには

- (1) 善玉菌が喜ぶ食事を摂る
 - ・発酵食品(納豆・漬物・キムチ・ヨーグルト・味噌・酢など)
 - ・食物繊維(野菜・豆類・海藻・果物・キノコなど)
 - ・オリゴ糖(ハチミツ・バナナ・大豆・きな粉など)
- (2) 規則正しい生活を送る
- (3) ストレスをためない
- (4) 適度の運動をする
- (5) 質の高い睡眠をとる
- (6) その他(笑う、感謝する、楽しむ、夢中になる、など)

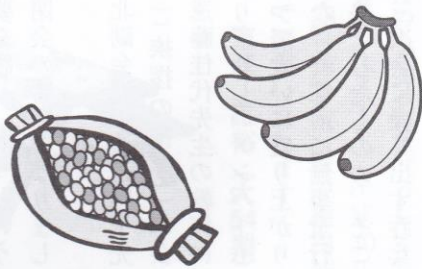
最近の研究では、生活習慣病や花粉症、アトピー、歯周病などの他、脳機能(学習能力、記憶、認知症など)や精神疾患(うつ病、自閉症など)にも腸内細菌が密接に関与している事が明らかになりつつあります。

発酵食品や*マゴワヤサイイ食材など日本の伝統食を見直し、腸に良い食事を摂り続けると、腸内フローラも一週間ほどで整うそう

です。腸内に美しい花畑を育てる気持ちで食事を意識していきたいですね。

*マゴワヤサイイ食材とは、豆類、ゴマやナッツ類、ワカメなどの海藻類、野菜、魚、特に小型の青魚、椎茸などのキノコ類、芋類 のこと

#本文は、藤田紘一郎氏、山田豊文氏の著書やNet検索した内容からなっています。



《編集後記》

スーパリーのセブイレブンのおでんは専門のスタッフが研究して毎年味を変えているそうです。レジの前でネタを選ぶ時時間がかかるのが気にするお客のため何種類が入っているセットも用意しているとのこと。「なに歯だより」も毎年度長以下みんなで工夫して少しづつ進化しています。

(大29期 青木 修二)

二年振りの発行になりました事、お詫び申し上げます。親世代が人生行路の締めくくりに来ているとして、昨年は物心裏面で広報編集の余裕がなく、漸く発行に漕ぎ着けました。今号は、歯科界の今、そして将来に渡って参考となる御寄稿を沢山頂戴しました。時代に即した歯科医師像の構築が待たなしの状況ではありますが、医療人としての心構えは昔も今も変わらないと思います。患者さんの為を第一に、我ら九歯大同窓は地道に歩もうではありませんか。

(大29期 下出 一夫)

なに歯だより第13号が出来上がりました。毎回毎回皆様の御協力に心より感謝申し上げます。今回新たに53期の重永拓郎先生が広報編集委員に加わって下さり、平均年齢もぐっと若くなり一同大喜びしております。これからも皆様に応援して頂けるような会報を目指し頑張りましょう。今後共どうか宜しく願います。

(大33期 山下 美枝)

今年国際スポーツで盛り上がる話題が多く、私達を楽しませてくれますね。試合そのものですが、一つ一つにドラマがあつて元氣やパワーを貰えます。さて、今回もなに歯だより第13号の完成を無事迎えることができました。皆様のご協力に、心より感謝とお礼を申し上げます。今後ともどうぞよろしく願います。

(大51期 大野 麻衣子)

この度、なに歯だより編集委員に加えていただきました、大53期卒の重永拓郎と申します。私は元々、福岡県久留米市の出身です。就職を機に大阪で暮らしはじめ、今年で11年目になります。最近九州へ帰省して地元の人と話をしている時、関西弁が出るようになりました。開業当時から長く診させていただいている患者さんからも、「先生、関西弁上手くなったね」と言われるようになり、自分の関西弁も板についてきたのかなあと思っておりました。しかし先日、5歳で保育園に通う長男から、「ほんまにー?」の発音について厳しく指導を受けてしまいました。自分では自然に話していたつもりでしたが、ネイティブスピーカーの彼には、かなりの違和感を感じさせてしまった様です(笑) 関西弁の奥深さを感じている今日この頃です。大阪に越してきた当初から、大変お世話になっている同窓会に、少しでもお役に立てればと思っております。よろしく願います。

(大53期 重永 拓郎)